

チャノキイロアザミウマ情報第1号

令和2年5月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

ブドウ、カキの防除適期は5月19日から25日と予測します。
発生状況に注意し、防除しましょう。

1 発生ピークの予測

有効積算温度を利用したチャノキイロアザミウマ第1世代成虫の発生ピーク予測日は、中山間部に位置する稲武を除いて5月19日から25日です（表1）。

本年のチャノキイロアザミウマ第1世代成虫の発生ピークは、前年とほぼ同時期と予測します。

なお、5月の気温は高くなると見込まれています。平年に比べ日平均気温が1℃高く推移した場合、発生ピークは現時点の予測日より2日から3日早まる可能性があります。

表1 チャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖	稲武
第1世代	5/24	5/25	5/20	5/19	5/24	5/24	5/20	5/21	5/23	5/21	6/16
(前年)	5/23	5/22	5/18	5/19	5/22	5/24	5/21	5/21	5/24	5/21	6/12
前年差	1日遅	3日遅	2日遅	±0	2日遅	±0	1日早	±0	1日早	±0	4日遅
第2世代	6/20	6/22	6/16	6/14	6/21	6/21	6/17	6/18	6/20	6/18	7/14

各地のアメダス平均気温から予測。

4月30日までは実測値を、それ以降は平年値（大府、豊橋は前年値（2019年））を用いて計算。

前年の第1世代は、前年気温の実測値を用いて計算。

2 防除

ブドウでは、例年5月上旬頃から成虫の飛来があり（図）、カキでは、開花期頃から成虫の飛来が多くなります。

チャノキイロアザミウマの防除では、成虫発生ピーク時の農薬散布が最も防除効果が高いとされています。例年発生が多いほ場では、表1の第1世代成虫の発生ピーク時期を参考に表2の薬剤などで適期に防除しましょう。

また、防風用に植えているイヌマキやサングジュなどは、本種の発生源になりますので、これらの発生状況にも注意しましょう。

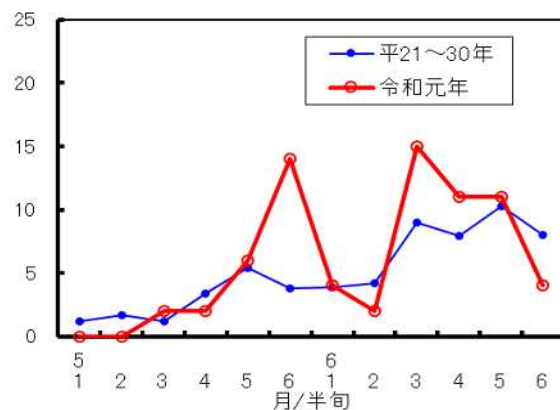


図 豊橋市(ブドウ)の黄色粘着板におけるチャノキイロアザミウマの誘殺状況

※ 平成21~30年の平年値及び令和元年のデータ

表2 チャノキイロアザミウマの主な薬剤

作物	薬剤名
ブドウ	アルバリン/スタークル顆粒水溶剤
	コルト顆粒水和剤
	モスピラン顆粒水溶剤
カキ	アルバリン/スタークル顆粒水溶剤
	スプラサイド水和剤

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。